

## 唐物

日本人は古来から、大陸からもたらされた優れた美術品に深い憧憬と尊敬を抱いてきました。平安中期に遣唐使が廃止され約300年近く交流が閉ざされましたが、平安末に宋との国交が正式に開かれて以降は、大陸から多くの品々が日本に渡来してきました。特に中国の美術品を「唐物」と称し、その多くは留学僧や渡来僧などによって喫茶の風習と共にもたらされ、禅宗の寺院を中心に武家社会にまで広まってきました。

## 禅院と「唐物」

鎌倉時代に「喫茶養生記」を著した明庵栄西(1141~1215)を始め、多くの僧侶、特に禅僧が中国に渡来し、また中国の北宋から南宋時代への動乱期に日本に渡った高僧も多く、その中には鎌倉五山の筆頭として建立された建長寺の開山蘭溪道隆(1213~1263)や、「唐物」の茶湯の象徴ともいえる台子を請来した南浦紹明(1235~1308)などがあります。彼らは宋時代から始まる抹茶の点茶法を、修行の手段としてもたらすとともに、寺院内での生活規範「清規」を取り入れ、その中に喫茶儀礼としての「茶礼」がありました。そのため、この「茶礼」の場では「唐物」が使われました。また、禅宗では「教外別伝、不立文字」に示されるように師から弟子へと法灯が継がれ、それと同様に「唐物」も単なる道具としてではなく、師から弟子へ大事に受け継ぐものとして「唐物崇拜」が行われました。それは、14世紀に夢窓疎石(1275~1351)が、当時の喫茶への痛烈な批判をしながらも、南浦紹明が請来した台子を使って、初めて台子飾りの点前を行っていることに見てとれます。

## 武家文化と「唐物」

「唐物崇拜」は、やがて禅院から武家へと広がり、鎌倉・円覚寺の塔頭である仏日庵の『仏日庵公物目録』(貞治2年1363)には、注記から多くの「唐物」が武家の手に渡っていることがわかります。このように、武家社会へ広がった「唐物」は宗教的性格から、鑑賞の対象とともにステータスシンボルとして、収集の対象へと変化していきます。

室町時代に京都を本拠として開かれた足利幕府は、それまでにあった王朝文化とは少し異なった武家文化を形成していきます。この中心となったのが、將軍家に近侍した同朋衆でした。かれらは様々な芸能に傑出しており、義満などの將軍が収集した「唐物」を管理し、幕府の公的・私的空間の「室礼」を確立しました。彼らによって編まれた『君臺觀左右帳記』は後世の座敷飾りに大きな影響を与え、歴代將軍が収集した「唐物」は「東山御物」として結実しました。

足利幕府が衰退の後、貿易の表舞台だった堺の商人たちは、京都の戦乱を避けてきた同朋衆の影響を受け、「唐物」を含んだ「名物」の収集を盛んに行います。時の権力者の織田信長は大掛かりな「名物狩」をし、自分の許に「名物」を掌握し、それによる「茶湯政道」を行いました。「茶湯政道」によって、「唐物」は城に匹敵する価値を持ち、「唐物」を所有者毎に列挙した「山上宗二記」や「玩貨名物記」などの名物記を生み出すようになります。そして、これらの名物記によって、より権威付けされていくようになります。

また信長や豊臣秀吉などによる「茶湯政道」も、これらの名品の価値を高めていきます。御下賜品や献上品として、有力者の間で贈答が行われる様になると、それに相応しく箱書や付属品が添えられ、その伝来によって付加価値が高くなっていきました。



## 4. 国宝 飛青磁花生

■龍泉窯 元時代・14世紀

■鴻池家→沖本家→安宅コレクション→住友グループ→大阪市立東洋陶磁美術館

4. 器表に鉄斑を散らし、その上に青磁釉を掛けたものを日本人は「飛青磁」と称し、茶道具として珍重しました。この作品は鴻池家に現存する『寛政三年道具改帳』二番蔵の「へ式拾三 飛青磁」と記載されているものと考えられます。

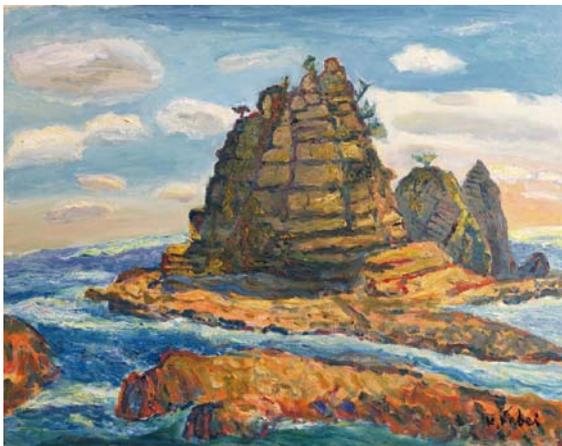


## 5. 堆朱蓮池鴛鴦文輪花盆

■明時代・15世紀

■東本願寺伝来

5. 様々な種類の朱漆を、四十層以上も塗り重ねた上に模様を彫り込んだ堆朱の盆です。唐物漆器を代表するものとして、日本に多くもたらされました。内箱の貼紙に東本願寺第二十一世光勝(敵如上人)の隠居所であった「燕申堂」の印が押されています。



鍋井克之「兜島の熊野灘」1965年作 大阪市立近代美術館建設準備室蔵

※今回紹介した絵画は、大阪市立近代美術館(仮称)心斎橋展示室で開催中の「ザ・大阪ベストアート展一府&市モダンアートコレクションから」に出品されています。<11/25(日)まで>

## ◆学芸員のおススメコレクション◆

### 大阪市立近代美術館(仮称)心斎橋展示室 兜島の熊野灘

ごつごつとした岩と、激しく白波を立てる海。厳しい自然の景観ですが、岩の形はどことなくユーモラスで、青空にただよう白雲も穏やかな雰囲気を感じさせます。大阪生まれの鍋井克之は、風景画を得意とし、「暖か味があって、荒い中に優美さのかけらが含まれているような」熊野灘の景色を好んで描きました。さて、大阪市&府のモダンアートコレクションから投票で選ばれた50作品を展示する「ザ・大阪ベストアート展」。小学生部門で一番人気となったのが本作です。「なんでもできるかっこいいおじいさんが住んでいそう」などといった自由な発想に、絵画を見る楽しさを再発見させられます。

(大阪市立近代美術館建設準備室学芸員 高柳有紀子)

#### 大阪市立近代美術館(仮称)心斎橋展示室

所在地 〒542-0081 大阪市中央区南船場3-4-26 出光ナガホリビル13階(旧出光美術館大阪)

TEL 06-4301-7285 FAX 06-6644-4894(ともに大阪市総合コールセンター)

アクセス 地下鉄「心斎橋」または「長堀橋」クリスタ長堀 北7番または北5番出口すぐ

ホームページ <http://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu120/artrip/>

★80N(エイトオン)は、大阪でてくてくミュージアムに改称いたしました

大阪市立東洋陶磁美術館/大阪市立科学館/大阪市立美術館/天王寺動物園

大阪城天守閣/大阪歴史博物館/大阪市立近代美術館建設準備室/大阪市立自然史博物館

大阪市立博物館・美術館・動物園

大阪でてくてくミュージアム